

■ 学校の共通目標

学力向上のための重点プラン【小学校】

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習の流れや一授業のめあてを明確にし、児童に見通しをもたせることや、授業のまとめや振り返りを確実に行うことで基礎学力の定着を図る。 一人一人が考えをもてるような学習を展開し、感染対策をしつつ、考えを伝え合う工夫をし、思考力と表現力を高める。 	中間評価		最終評価	
		<ul style="list-style-type: none"> I C T機器や具体物を活用し、視覚的に分かりやすい提示・教示を行うことで学力の向上を図る。 「分かる」喜びを実感し、自ら学ぼうとする意欲が向上するよう、集団での指導（一斉指導やグループ学習、タブレット端末を使用した集約等）と個に応じた指導（個別指導）の工夫と充実を図る 				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学「読むこと」について、内容の大体を読み取ることや、目的に応じて必要な情報を見付けることが不十分な児童がいる。</p> <p>学「書くこと」では、自分の思いや考えを表現するための語彙の獲得が不十分であったり、文章を読み返したりする習慣付けができていない状況である。</p> <p>学「話すこと・聞くこと」については、相手が伝えたいことや、自分が聞きたいことに集中して聞く姿勢が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 叙述に基づいて、内容の大体を捉え、登場人物の行動に着目したり、文章の中の重要な語や文を見付けたりする力を身に付ける必要がある。 豊かな語彙を獲得し、活用する習慣を付ける必要がある、また、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることが必要である。 相手を意識して発言を受けて話をつないだり、大事なことを落とさないように集中して聞いたりする力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想から学習計画を立てるなど、内容の大体を全体で共有することで理解を図る。また、教科書の文章に印を付けるなど、視覚的に大事な言葉や文章に気を付けさせるように指導する。 漢字指導の際に、文章作りをしたり、反対語や類似語などを紹介したりするなど、様々な言葉に触れられるように指導する。また、デジタルドリルを活用して、繰り返し言葉についての問題に取り組めるようにする。さらに、書いた文章を見直すポイントを示し、具体的に読み返す習慣付けを行う。 「目」は相手に向ける、という基本的な所を繰り返し指導し、集中して聞く姿勢を身に付けさせる。また、指導内容を合言葉にするなど、児童が親しみやすい方法で継続した指導を行う。 		

	算数	<p>学 加法、減法についてはおおむね理解が深まっているが、繰り返しや繰り返し下がりの計算では、定着の度合いに個人差がある。</p> <p>学 文章問題では、問われている内容を正確に読み取ることが不十分であり、より定着を目指したい状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し上がり、繰り返し下がりの計算を正確にできるようにする必要がある。 ・問題の内容を把握し演算決定をすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間を活用し、繰り返し計算練習を行い、より正確に速く計算ができるように指導を続ける。また、デジタルドリルを活用して筆算の問題に取り組みせ、繰り返し・繰り返し下がりの定着を図る。 ・具体物や半具体物を示しながら、問題場面を理解させ、演算決定をさせる。また、式、答えを正確にノートに記述することも繰り返し指導することで、問題を読み取り、答えることまでの一連の流れを定着させる。さらにデジタル教科書を活用し、視覚的に問題場面を捉えられるよう工夫する。 	
3	国語	<p>調 平均値を上回り、概ね良好であったが「書く」領域では下回っている。</p> <p>学 語彙の定着に個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として文章の組み立てに苦手意識がある。 ・単元で取り扱った言葉や漢字を活用しようとする児童が多い反面、漢字やひらがなを正しく書いたり、使えたりできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く単元を中心にまずは定型を押さえ、それに当てはめていく指導を行う。また、ICT機器を活用し、児童の作品を取り上げ、友達の良いところを手本とできるように周知する。 ・デジタルドリルを学校・家庭両方で活用し、正しい漢字・筆順を書けるように年間で3回以上同じ問題に取り組むよう、うながす。 	
	算数	<p>調 全ての領域において目標値を上回り良好な結果だった。しかし、目標値に達していない児童も数名おり、理解の定着を要する。</p> <p>学 九九の定着が不十分な児童がいる。大多数はできているので、底上げが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の内容の理解が不十分である児童がいる。具体的には九九の暗唱、時計の読み方、計算速度などである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士のつながりを大切にし、九九の暗唱や教え合いの時間をとるようにする。 ・デジタルドリルや空いている時間を活用し、学習指導支援員や少人数算数担当の教員と共に、気になる児童の補習を行い、学級全体の学力を高める。 	
4	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、「読むこと」に関しては、目標値を越えている。また、「説明文の内容を読み取る」についてもおおむねよくできている。</p> <p>学 「はじめ」「中」「おわり」に自分の思いを当てはめて作文することはできるが、汎用的に書けない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表することに自信をもてない児童が多いため、読みの深まりが不十分な面がある。 ・言葉に着目した読みを身に付けることや表現する機会の確保をすることで、より情景や登場人物の心情に迫れる読みに繋げていく必要がある。 ・文章を書くことに関しては、自信をもって書けていない、詳しく書けない児童がいるため、考えを表現する機会を多く確保する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く、発表する、聞く、考えを深めるという授業形態をとることで、多様な考えに触れさせる。 ・ペア学習を多く取り入れ、まずは自分の考えを伝える活動を多く体験させていく。 ・書く単元の前には、ポイントやプロットをもとに、文章を構成させることで分かりやすい文章が書けるようにさせる。また、読み合いをすることで表現の多様性に触れさせていく。 ・朝の会の1分間スピーチ等を通して、発表する機会を確保する。 	

	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査では、「測定」で目標値を大きく上回った。「たし算・ひき算」の正答率が低く、まだ、十分身に付いていない状況である。</p> <p>学 「たし算・ひき算」の正答率が低かった点は、乗法の筆算等でも理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然と問題を解くのではなく、考えの根拠となるものを明確にして、課題解決することに必要がある。 ・「たし算・ひき算」の正答率が低かった点は、乗法の筆算等でも正確に計算をすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の四則計算の練習を、定期的に家庭学習として出していく。 ・単元の初めに、3年生の関連単元の復習を意図的に取り入れることで、学習のつながりから、考えの根拠を見付けていくことに慣れさせていく。 ・問われていることは何なのかを確認してから、学習に取り組ませていく。 		
5	国語	<p>調 「読むこと」について、説明文の内容を正確に読み取ることがやや不十分である。</p> <p>学 「書くこと」では、書こうとするものの中心を明確にして、文章を書くことに、苦手意識をもつ児童がやや多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の内容を、大まかに理解することはできるが、段落の内容を理解して、文章を読み取ることができるよう、段落を意識した読みの力を付ける必要がある。 ・文章を書くことへの抵抗は少なくなってきたが、柱となる内容をどのように表現するかを理解し、活用していく力を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落と段落のつながりを、図式化したり、短い要約文や小見出しを付けたりする学習を、国語だけに限らず、他教科においても意識して繰り返し行う。 ・説明文の学習で文の構成を意識して学習させ、国語以外の教科で文章を書く際にも文章の構成を意識して取り組むことができるように指導していく。 		
	算数	<p>調 「量と測定」について、円の中心やコンパスの使い方に関して、理解が深まっていない児童が多い。</p> <p>学 「数と計算」について、除法について全般的に理解が不十分な児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパスや分度器、定規などの扱いが正確にできるように習慣付ける必要がある。 ・文章問題を解くための除法の立式を確実に理解させる必要がある。問題文から立式につなげる指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆算のときにもミニ定規を使ったり、ノートをまとめる際にも工夫して道具を扱ったりするようにする。 ・検算をする習慣を付けさせ、正確に計算ができているか確認をしながら進めていく。除法の立式の意味を説明できるように、言葉での説明も重視する。 		
6	国語	<p>調 「読むこと」の領域においては、正答率が目標値に対して+5ポイント程度達成している問題が多かった。</p> <p>調 全体を通して、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が、目標値に対して+5ポイント程度達成していた。</p> <p>調 「漢字の読み書き」に関する問題の正答率が、目標値に対して全体的に低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の学習においては、物語文や説明文を読み、感じたことや分かったことをまとめることに苦手意識をもっている児童が多い。 ・「書くこと」の学習においては、感じたことや考えたことなどから書くことを選んだり、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることに苦手意識をもっている児童が多い。 ・全学年までの漢字が定着していない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の学習においては、単元の中でも大切な部分で振り返りを行い、感じたことや分かったこと、疑問に思ったことを書かせるようにする。そうすることで、物語文や説明文に対する自分自身の考えを蓄積でき、感じたことや分かったことをまとめる際の手立てとする。 ・「書くこと」の学習においては、取材の際の視点を明確にして授業を行う。また、隙間の時間を活用し、さまざまなテーマで200文字程度の作文を書かせ、基本的な型を指導する。 ・モジュールの時間に漢字ドリルの音読に取り組ませ、読みを完璧にさせる。また、児童の宿題の状況から、まちがえやすい漢字や書けていない漢字をピックアップし、練習させる。 		

	算数	<p>調「小数のかけ算・わり算」等の基礎的な計算の正答率は、目標値に対して+5ポイント程度達成することができた。</p> <p>調全体的に「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が、目標値に達成していなかった。また、課題として挙げた分度器やコンパスの扱いに関しても課題がみられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容が定着しない児童が多い。 文章から読み解く問題を苦手としている児童が多い。特に、「単位量あたりの大きさ」、「割合」については、比べられる量やもとにする量を区別することが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業の初めの7、8分間で復習タイムをとる。その際に概数や基準量を求める問題を出題し、理解の定着を図っていく。(通年) 文章題に取り組む際は、問題を解く時に必要な情報を全体で確認し、線分図等を活用しながら問題を解かせるように指導していく。 		
音楽		<p>低 大きな声で歌っている。音楽にのって体を動かしたり、表現したりすることに主体的である。リズム感がよく、手本を聴いただけでリズムの手拍子などをすぐにまねできる児童が多い。</p> <p>中 真面目に音楽活動に取り組んでいる。鑑賞のワークシートなども聴き取ったことを細かく書いている児童が多い。声を響かせながら歌えている。</p> <p>高 ほとんどの児童が大きな声で声を響かせて歌えている。主体的に学習に取り組む児童が多い。リズム感のよい児童が多い。</p>	<p>低 大きな声で歌っているが、少数が叫んでしまう児童が多い。</p> <p>中 自分が感じ取ったことを発表することについて消極的な児童が多い。また、自分の意見にも自信がない様子である。</p> <p>高 歌唱の際に、大声で歌ってしまう児童が複数人いる。音楽の学習に対して自信がもてず、消極的な児童が数人いる。鑑賞の学習に対して苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<p>低 歌う声と地声の違いを体感させ、声を響かせて歌う指導を行う。</p> <p>中 色々な場面で自分の考えなどを発表する学習を増やし、児童の言葉に必ず価値づけを行うことで自信をもたせる。</p> <p>高 地声と歌声の違いを体感させ、少しずつ声を響かせて歌えるように指導する。合唱や合奏などの授業を通して、大勢で1つになって音楽をする楽しさや達成感を味合わせるなどして音楽に主体的に参加する児童を増やす。鑑賞で、聴くポイントを明確に示し、言葉のヒントなども毎時間与え、よい考えの児童がいたら価値づけを行う。</p>		
図工		<p>低 表現したいことをいきいきと表している。発言も積極的にできる児童が多い。一方で、絵や工作など特定の分野で表現に迷う児童が見られる。</p> <p>中 一人一人がお互いの作品に興味をもって活動している。協働して作りたがる児童が多く見られる。</p> <p>高 自分なりに考えたことや感じ取ったことを表現できる児童も多いが、特定の分野で表現に迷う児童も見られる。また、自分から発表できる児童が少ない。</p>	<p>低 失敗を恐れている面がある。児童同士がお互いの作品に興味をもって取り組むことができる態度を育てる必要がある。</p> <p>中 個人での制作に苦手意識のある児童が数名いる。また、他の児童の作品を鑑賞する際、作品の見方が浅い児童も多い。</p> <p>高 鑑賞時の感想が浅い児童が多い。見方が浅い児童や、文章に表すことが苦手な児童がいる。</p>	<p>低 失敗しても平気だという安心感を与えられるよう材料を十分に用意しておく。</p> <p>中 自由に発想を広げたり考えを深めたりできるようにし、失敗を恐れず取り組むことができるよう働きかける。タブレット端末を活用し、鑑賞活動の時間の充実を図る。</p> <p>高 活動に入る前にワークシート等の言葉で考える活動を行う。また、タブレット端末を活用し、活動の経過を自身で振り返ったりできるようにする。</p>		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況